

ルシャ川の橋と道路の現状等

橋の経過	2009.6(H21)豪雨により落橋(右岸側) 2010.7(H22)現在の箇所に移設(右岸側→左岸側) 2011.9(H23)一部補修
問題点	河道が直線的に固定され産卵環境が低下
	No.1床固工下の河床低下を招き、サケ科魚類の遡上障害
課題	表流水、伏流水の正常な流れを回復
	河川の枝分れや蛇行化を促進
	サケ科魚類の産卵環境を改善
検討に当たっての留意点	遺産地域のA地区(コア)であることから、最小限の土地改変で対応
	低コストで対応



サケ科魚類の産卵環境を改善

平成18年6月撮影

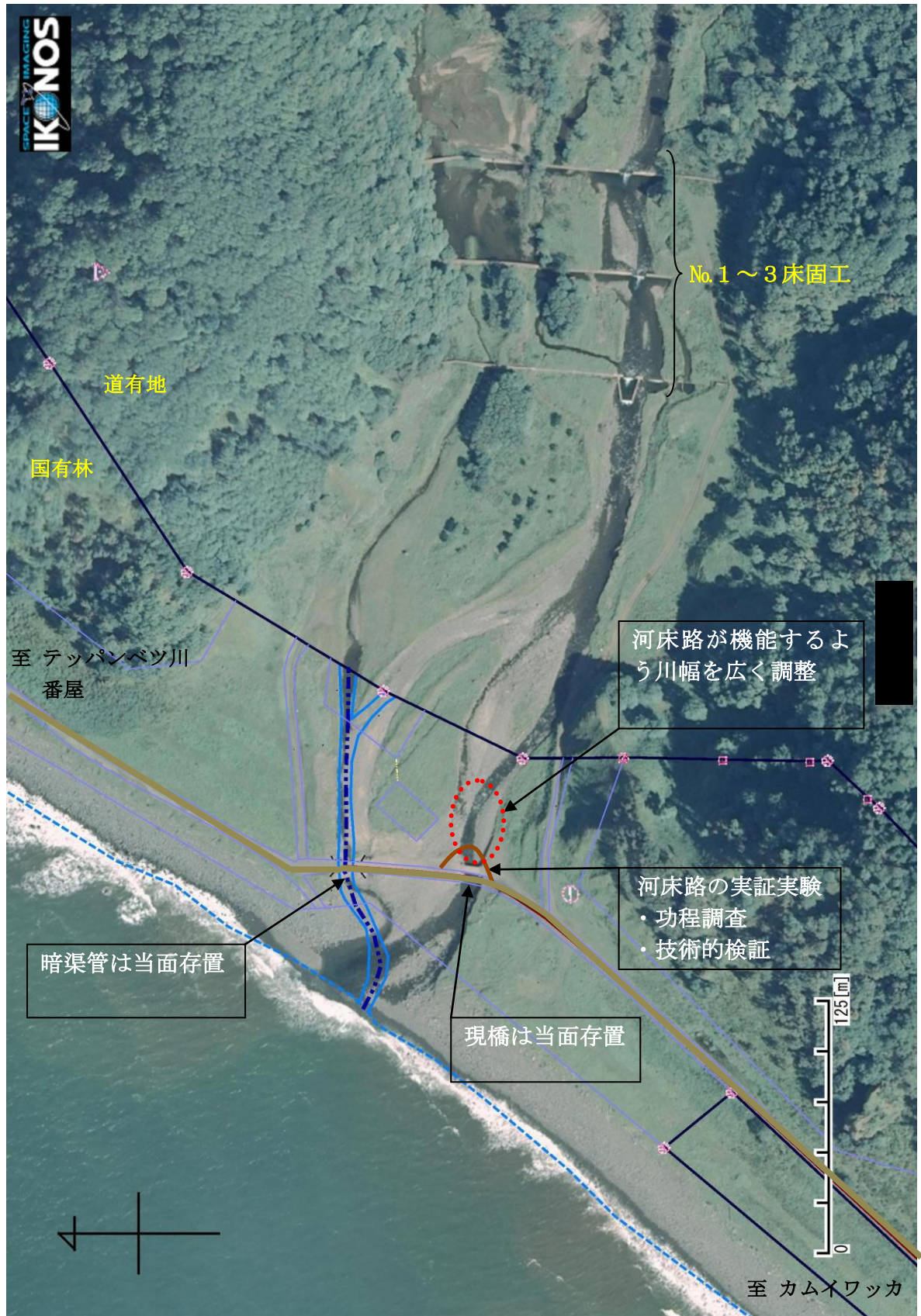


(道庁提供資料)

平成26年 秋に撮影



現橋の上方に河床路を作設し実証実験



現橋の上方で作設する河床路～実証実験～

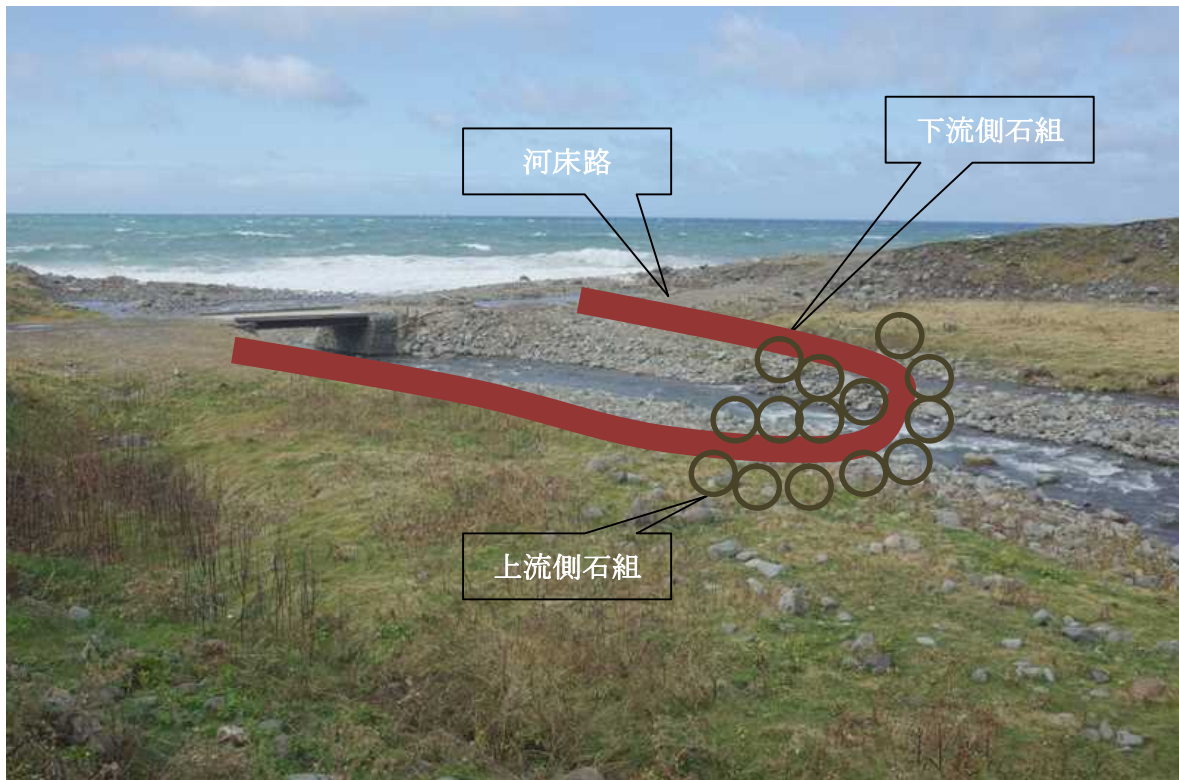
試験施工する河床路の構造、位置の検討

簡易でメンテナンスのしやすい石組式構造とし、大規模な出水や波浪による障害が起きた場合は、適宜修繕を行っていくこととする。

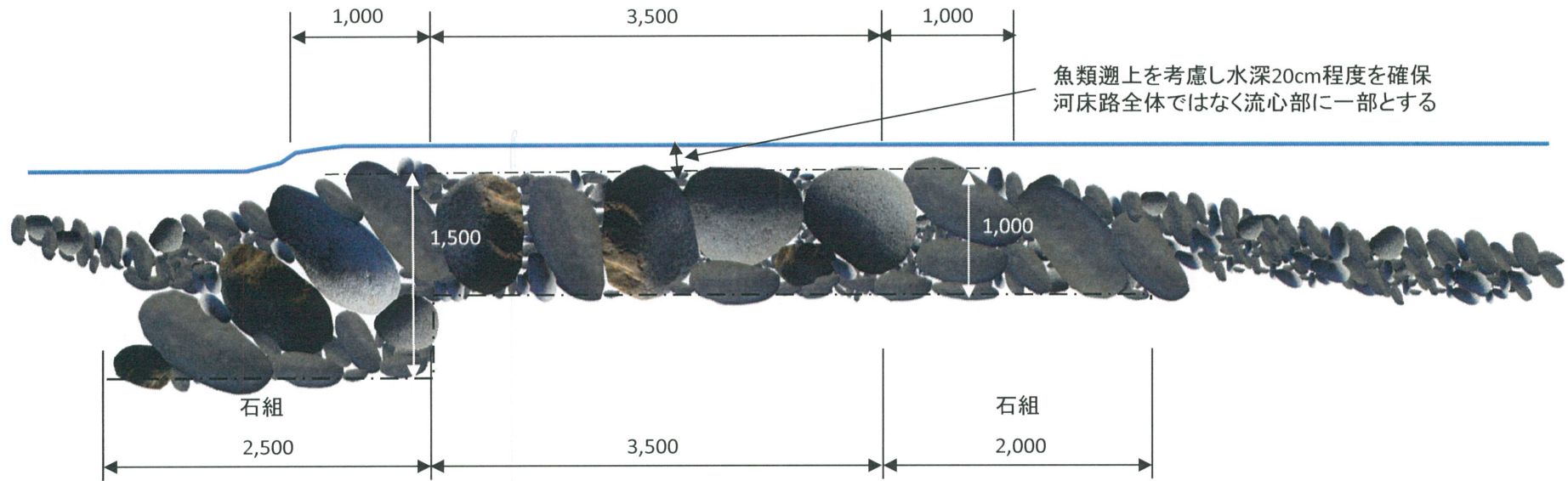
また、石組に使用する資材は、現地材料を基本とし、新たな構造物の設置に対する懸念が低減するよう環境との調和に配慮する。

河床路の位置は、現橋からやや上流の河床幅が広い位置を検討し、流速や水深など河床路が機能するよう河床路施工箇所周辺の川幅を調整する。

<イメージ図> 上下流に自然石をアーチ状に組み、河床路の幅員を確保する。



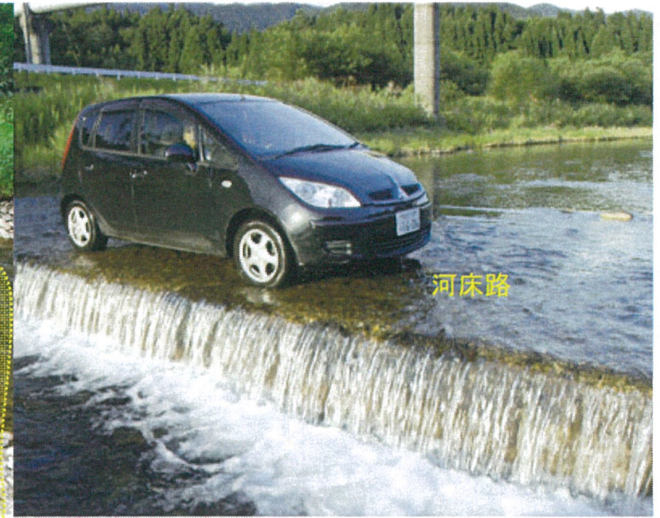
河床路イメージ図



大石を置いただけでは大石の隙間の礫が流出される



河床を整理しただけだと洪水時に河床が掘られ常に整備



河床をコンクリート、ブロックで行うと殆ど下流が低下する

空石組構造図



石組イメージ（設計詳細図）

護床ブロック3t級が流出するような河川でも空石組工法で河床維持図れる



スケジュール（案）

1. H29年5月頃
測量設計業務契約
2. H29年8月頃
河床路の設計図面案完成
3. H29年9月頃
H29年度第1回河川APにて設計図面案を提示
4. H29年9月～12月頃
河川APで頂いたアドバイスを基に設計図面案を修正
修正した設計図面は、グループメールで各委員・関係者へ情報
5. H30年1月頃
H29年度第2回河川APにて設計図面の最終確認
6. H30年5月頃
河床路の工事契約
7. H30年5月以降
河床路の機能について経過観察
経過を以降の河川APで報告